－所蔵作品紹介－

David　NASH　ナッシュ、デイヴィッド

十字形に焦がした卵

じゅうじけいにこがしたたまご

作品データはこちら

当館の常設展示室前のロビーに展示されている作品で、美術館の子供向けスタンプにも使われ、来館者に親しまれている。

デイヴィッド・ナッシュ（1945生）はイギリスのサリー州出身で、その後北ウェールズに在住し、長く野外制作による彫刻を手掛けてきた。それらの作品は、作者自身が現地を訪ね、調査し、現地の人達の協力を得、そこに滞在し、現地の木を用いて制作されたものである。彼の活動は国際的で、イギリス国内はもとより、アメリカ、フランス、ベルギー、フィンランド、デンマークなどでプロジェクトを行い、日本では奥日光（1982、1984）、仙台（宮城県美術館、1984）、北海道音威子府村（1993-94）でプロジェクトを行った。日本国内での巡回企画展は、奥日光で制作した作品を中心として1984年から1985年にかけて栃木県立美術館などを巡回したものと、音威子府村で制作した作品により1994年から1995年にかけて当館、神奈川県立近代美術館、名古屋市美術館などを巡回した２つがある。

この作品は、大きなミズナラの木から最大限の卵形を彫り出したもので、樹木の大きさや生の感触を生かしている。表面に十字形（十字架形ではない）を彫り、ガスバーナーで焦がしている。卵形といい、十字形といい、自然を分析する傾向を見せるものの、樹木の大きな生命力を感じさせる。

彼の作品には自然との交歓、自然と造形との無理のない融合が目指されているのであり、それは日本人の感性に近い部分がある。また、ナッシュがこの作品を含む音威子府プロジェクトを実現させた背景には、音威子府にアイヌの彫刻家砂澤ビッキ（1931－1989）が在住、活動していたこととともかかわっている。この二人は会うことはなかったが、それぞれ個性的でありながら、自然へのアプローチの面で通じ合うところがあるといえよう。

旭川美術館だより「氷華」No.38（1997.８発行）「収蔵作品から」より